

第3回 内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会 議事要旨

日 時：2024 年 7 月 9 日（火）10:30-12:00

場 所：鉄道・運輸機構 鉄道技術センター 第二会議室（Web 会議併用）

参加者：日本内航海運組合総連合会、日本旅客船協会、全国油脂事業協同組合連合会、日本船用工業会、鉄道・運輸機構（事務局）、国土交通省、豊田通商、ダイセキ環境ソリューション、海上・港湾・航空技術研究所、ヤンマーパワーテクノロジー

議題1 今年度の事業計画について

◆事務局より説明。

- 24 年度事業計画として、内航船及び港湾における廃食油の取扱い等の実態調査の深堀り、陸上試験と船上実証試験の実施、結果を踏まえた検討課題の抽出とガイドライン、マニュアルの試案の検討を追加。
- 23～25 年度の3か年の全体イメージの確認。
- 今年度の協議会として第4回（中間報告）、第5回（今年度実施報告、来年度の活動計画）のスケジュール案を説明。また情報発信として成果報告セミナーの開催を検討。

議題2 協議会参加者からの関連情報の提供

◆国土交通省より説明。

- 本年3月に「船舶におけるバイオ燃料取り扱いガイドライン」を取りまとめ。
- 策定にあたっては、FAME+C 重油・SVO+C/A 重油の船上試験、陸上エンジン試験のほか、酸化安定性試験や混合安定性試験等も実施。
- バイオ燃料の船舶供給にかかわる陸上側、船舶側それぞれに係る主な規制を整理。

◆日本内航海運組合総連合会より説明。

- 廃食油・バイオ燃料を取扱う委員会（環境安全対策委員会、工務小委員会）、その中で実施したバイオ燃料供給事業者の講演の紹介。
- 現在の課題として、①諸法令規制によりバンカーバージ上での混合攪拌が一般である実態、②品質の均一性に対する懸念、③陸上施設での混合を可能とする法整備の検討に向けた、事業者からの協力要請。
- 要望として、①燃料規格の制定並びに日本船用工業会との合意の形成、②プレ実証船社との実証終了後の意見交換会の実施、③陸上試験見学会の実施。
- （事務局より）陸上試験の見学会は実施する予定。

◆日本旅客船協会より説明。

- 廃食油回収やバイオ燃料導入を実施している、福岡市、商船三井さんふらわあ及び豊田通商、小樽運河クルーズの各社取組みの紹介

◆日本船用工業会より説明。

- 会員企業の一として、ヤンマーパワーテクノロジーの取組みを紹介。
- バイオ燃料の性状がISO等の規定を満足する限りにおいては燃焼に問題ない認識。一方、粗悪な燃料によるトラブルを懸念。

◆海上技術安全研究所より説明。

○2022-23 年度国土交通省事業での船用バイオ燃料の陸上試験の紹介。

○バイオ燃料（SVO、FAME、HVO、ジャトロファ）計 13 種を対象に、A 重油・LSC 重油との混合での各種試験を実施。着火性等での問題は確認されなかった。

○劣化を防ぐために長期保管や高温保管を避けることが重要との認識。

◆全国油脂事業協同組合連合会より説明。

○国内での廃食油の発生量や利用状況、取引価格の現況等を解説。

○本事業における諸課題を整理。

◆豊田通商株式会社より説明。

○同社事業及び船舶向け燃料事業の概略、各社と現在実施しているバイオ燃料の個別事例紹介。

議題 3 関連情報について

◆事務局より説明。

○今年度実施する技術調査の実施内容。

○トライアル実施に向けた参加者からの懸念点への対応方針の確認。

次回の連絡協議会

◆次回の連絡協議会は今年度調査の中間報告として、調査進捗を見ながら年末日途に開催予定。

（以上）